

株主通信

2020年3月期 中間期

2019年4月1日から2019年9月30日まで



証券コード:4461



第一工業製薬株式会社



令和は、ハーモニーとガバナンスの時代、美しい調和の成長を目指します

「REACT1000」の最終年度となる2020年3月期は、企業の使命である存続と安定成長の基盤づくりを進めています。

代表取締役 会長 兼 社長 **坂本隆司**

「REACT1000」の先の成長へ向けて

第2四半期に、業績見込みの下方修正を行いました。需要の旺盛なIT・電子用材料ではフル稼働を超える供給対応の増産分がコスト高になっていること、そして、原料価格の上昇分を販売価格に反映できていないことが主因です。米中貿易摩擦の影響も出始める中、将来が期待できる設備投資は予定に沿って進めています。IT・電子用材料では、初期投資金額の2.4倍となる新プラント建設を8月に着工しました。現行計画の数値目標は足踏みしていますが、「REACT1000」で掲げた非財務的な課題には計画通り実施中です。

認知症解明に挑戦する株式会社バイオコクーン研究所や、それを展開する抽出や粉末化の技術を持つ池田薬草株式会社が昨年当社グループに加わりました。ライフサイエンス事業の新規立ち上げであり、その次の柱となる製剤事業を目下検討中です。持続的成長の基盤づくりへ積極的に取り組んでいます。

インスパイアード・パートナーとの連携によるハーモニー

これまでのB to B(企業どうしの取引)やB to C(企業と消費者の取引)とは異なる流れの時代に入ったとらえています。クラウドやビッグデータによるC to B(消費者と企業の取引)への変化です。C=消費者のニーズ、ウォンツの動向を見据えた商品開発が、当社に求められます。

インスピレーションは、ひらめきや激励と訳されます。新しいひらめきや励ましを共有できる取引先を「インスパイアード・パートナー」と呼んでいます。切磋琢磨の連携により開発した技術を用いて、その取引先専用の製品を製造しています。有力なインスパイアード・パートナーを通して市場の変化を先取りするのです。取引先の売上拡大が、当社の業績拡大となるビジネスモデルです。

四日市市霞の新工場設備の大半は、ユニークでナンバーワンの製品の生産が占めています。建設中であるIT・電子用材料のプラントは、来年6月に完成する予定です。通信規格第5世代5Gをリードするインスパイアード・パートナーとの関係が一段と親密になっています。

ケミカル150周年、令和の旅立ち

現在の「REACT1000」計画の作成時に、未来図を描きました。事業内容を、既存保有、周辺開発、新規着手に3分類しました。既存事業を「アクチャル」、改善・改良分野を「ネクスト」、新規領域を「ドリーム」と名付けました。継続的な成長へ向けた土台作り、激動や波乱に耐えて存続できる企業への体質転換を行う5年間でした。

明治の御代替わりの翌年、1869年に関西に舎密局が創設されました。化学振興局と申しましょうか。令和は、日本のケミカル150周年であり、新しい旅立ちの年と思っています。「REACT1000」を結んで始まる来年度から、経営と執行の分離を行います。経営をつかさどる取締役は、代表権者2名、生産、販売、研究、管理を担当する4名と社外役員3名です。本部制を敷き、執行役員を核に全社一丸となった計画数値を実現する組織とします。設置済みの社外役員による「後継者育成コミッティ」を通じ、今後の当社を担う人材の育成にも取り組みます。

幸福な未来に向かう — 「FELIZ 115」 —

次の5カ年経営計画の名称は、「FELIZ 115」です。スペイン語で幸福を意味し、創業115周年を迎える2025年

3月期に向けて、幸福度経営を実践するものです。思いは、頭文字のFUTURE(未来)、ENVIRONMENT(環境)、LIFE(生命)、INNOVATION(革新)、Z・FLAG(挑戦)です。ステークホルダーにとって、(未来)(環境)(生命)(革新)(挑戦)とは何か。今年12月に計画を完成させ、来春2月には公表する予定です。

ステークホルダーとの協働による企業価値の向上へ向けて、SDGsの取り組みも進めてまいります。SDGs17項目のうち、当社が意識して掲げる項目を5つ選びました。「3.すべての人に健康と福祉を」、「7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに」、「9.産業と技術革新の基盤をつくろう」、「12.つくる責任 つかう責任」、「17.パートナーシップで目標を達成しよう」。これらの目標の具体化が、計画策定の重要なテーマとなります。

株主のみなさまへ

令和の幕開けに、令はガバナンス、和はハーモニーと解釈しました。新しい時代の、新たな連携によるハーモニーと強固なガバナンスにより安定した成長を目指します。株主のみなさまには、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



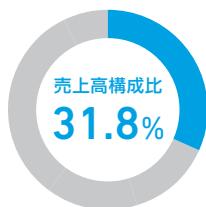
経常利益 (百万円)



親会社株主に帰属する当期(四半期)純利益 (百万円)



事業セグメントの概況(第2四半期累計)



売上高 **96億74**百万円
前年同期比 -9.6% ▼

営業利益 **4億61**百万円
前年同期比 -36.9% ▼

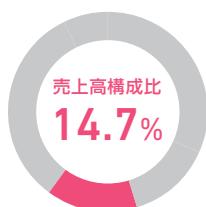
IT・電子用途は伸ばしましたが、ゴム・プラスチック用途はやや低調に推移し、機械・金属用途、塗料・色材用途はやや低迷し、石鹸・洗剤用途は低迷しました。その結果、売上高は総じて低迷しました。



売上高 **40億94**百万円
前年同期比 +2.2% ▲

営業利益 **△1億17**百万円
前年同期 1億24百万円

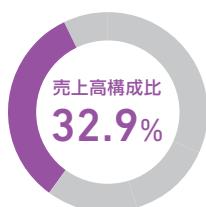
ビニル系高分子材料はゴム・プラスチック用途が低調に推移し、シオ糖脂肪酸エステルは食品用途がやや低迷しました。セルロース系高分子材料は医薬品用途が順調に推移しました。売上高は、総じて好調に推移しました。



売上高 **44億54**百万円
前年同期比 -4.0% ▼

営業利益 **△87**百万円
前年同期 △3百万円

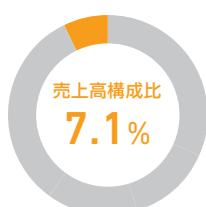
土木用薬剤は好調に推移しましたが、フロン規制に関連する環境配慮型の合成潤滑油や、土木・建築用材料は低迷しました。その結果、売上高は総じてやや低迷しました。



売上高 **100億16**百万円
前年同期比 +25.9% ▲

営業利益 **12億8**百万円
前年同期比 +1.6% ▲

難燃剤はゴム・プラスチック用途がやや低迷しましたが、光硬化樹脂用材料はIT・電子用途が顕著に伸ばしました。その結果、売上高は総じて顕著に伸ばしました。



売上高 **21億61**百万円
前年同期比 +1.4% ▲

営業利益 **1億25**百万円
前年同期 23百万円

太陽電池用途の導電性ペーストはやや低調に推移しましたが、電子デバイス用途のデバイス材料が好調に推移しました。その結果、売上高は総じて好調に推移しました。

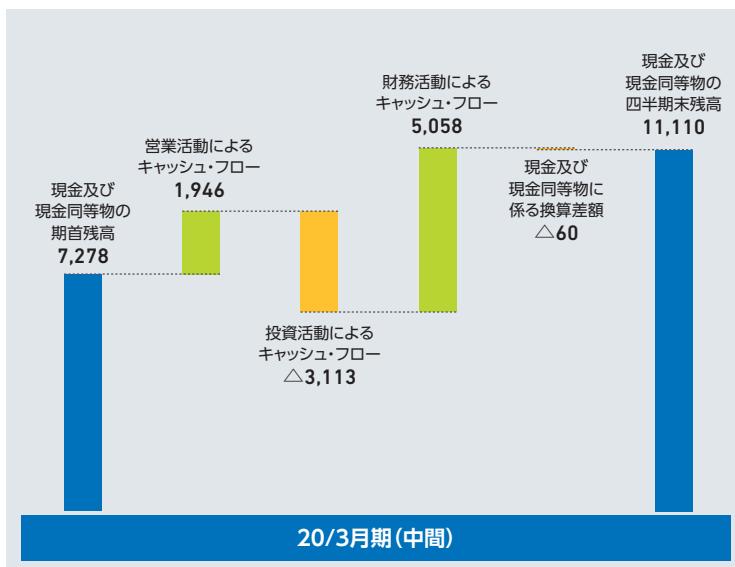


連結財務情報

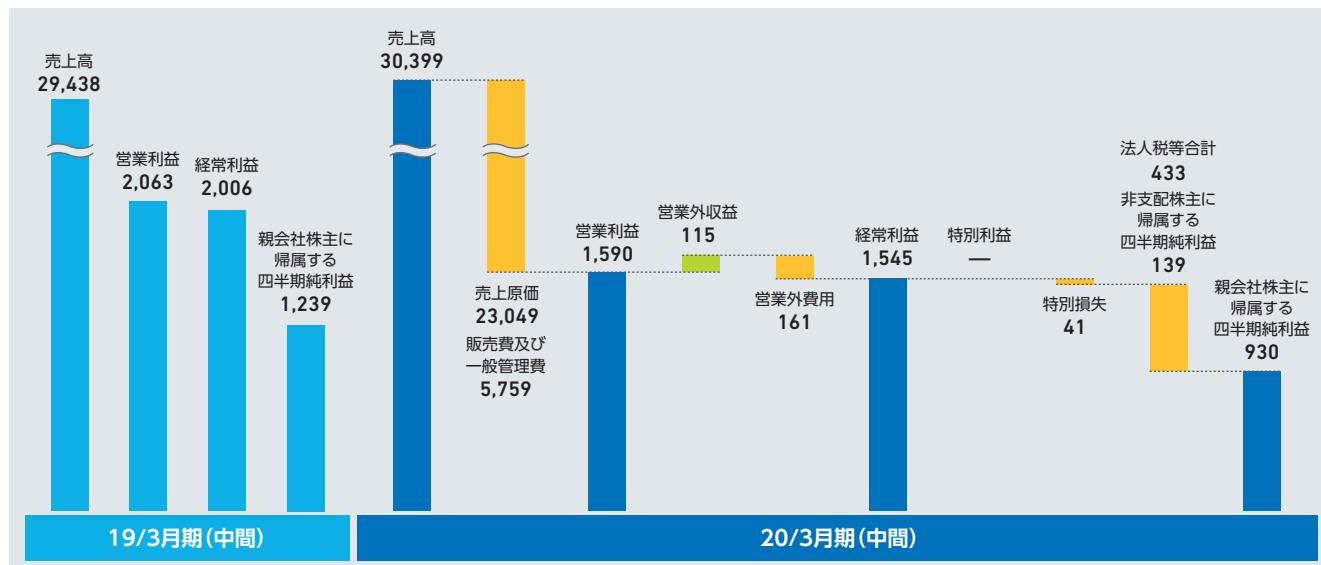
連結貸借対照表 (百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書 (百万円)



連結損益計算書 (百万円)



新設株主優待制度アンケート結果のお知らせ

株主のみなさまには、平素のご支援に感謝申し上げます。

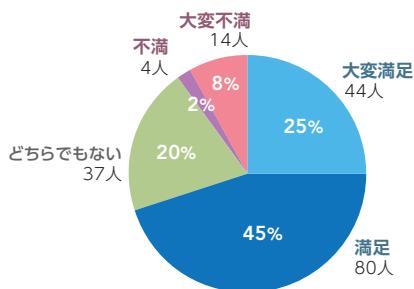
当社株式に対する投資の魅力を高め、より多くの株主さまへ当社製品への理解を深めていただくため、本年度より株主優待制度を開始しました。

7月上旬より順次、当社製品「カイコ冬虫夏草」5日分お試しセット(40錠)を発送、同封の優待クーポンを使って多くの株主さまに「カイコ冬虫夏草」をお買い上げいただきました。

短期間にもかかわらず、リピートいただく方もおられ、予想以上の反響となりました。誠にありがとうございました。

優待品に同封いたしましたアンケートはがきのご返信結果を、以下の通りご報告申し上げます。

株主優待制度実施について



満足

- 毎回、優待品は続けてほしい
- 株主を大事にすることは良いこと
- 朝の目覚めが良くなり、気分的にもスッキリした (注) 個人による感想です

不満

- 優待ではなく配当に加算してほしい
- 値段が高い
- 優待価格を継続してほしい

70%が大変満足・満足で、おおむね優待制度の導入については好印象

アンケートにご協力いただき誠にありがとうございました。株主さまからのお声を真摯に受け止め、来年度へ向けて改善を試みてまいります。引き続き、一層のお力添えをお願い申し上げます。

第155期定時株主総会決議ご通知につきましては、
当社ホームページに掲載しております。

<https://www.dks-web.co.jp>

統合報告書「DKSレポート2019」には

株主さまや投資家さまとの対話ページを設けております。

<https://www.dks-web.co.jp/ir/report/index.html>

健康経営®への取り組み

「健康経営®」は、NPO法人健康経営研究会の登録商標です。



2年連続取得

当社は、平成31年2月「健康経営優良法人(大規模法人部門)～ホワイト500～」に2年連続取得しました。大規模部門で「特に優良な健康経営を実践している企業」とであると認められました。



2年連続最高ランク獲得

当社は、平成31年3月日本政策投資銀行の「DBJ健康経営(ヘルスマネジメント)格付」に2年連続「従業員の健康配慮への取り組みが特に優れている」と評価されました。

会社概要・株式の状況 (2019年9月30日現在)

会社概要

社名	第一工業製薬株式会社
創業	明治42年4月
創立	大正7年8月
資本金	88億9,500万円
従業員数	532名(連結1,050名)

取締役、監査役

役職	氏名	役職	氏名
代表取締役 会長兼社長	坂本 隆司	代表取締役 専務取締役	赤瀬 宜伸
常務取締役	浦山 勇	常務取締役	大西 英明
取締役	北田 明	取締役	岡本 修身
取締役	山路 直貴	取締役	河村 一二
取締役	三澤 英人	取締役	祝迫 浩一
取締役(社外取締役)	青木 素直	取締役(社外取締役)	谷口 勉
取締役(社外取締役)	宮田 康弘		
常勤監査役	藤岡 敏式	常勤監査役	西崎 信一
監査役(社外監査役)	井手 秀彦	監査役(社外監査役)	田中 晴男

配当金・配当性向の推移



当社は、株主のみならずまへの利益還元を充実させるため、2020年3月期は中間配当を実施することといたしました。

当社は、2018年10月1日をもって当社普通株式について5株を1株にする株式併合を行いました。これに伴い、2016年3月期の期首に当該株式併合が行われたと仮定して算定しております。

事業所

●本店	●名古屋支店	●四日市事業所 千歳工場
●本社・研究所	●九州支店	●四日市事業所 霞工場
●東京本社		●大湊事業所
●大阪支社		●滋賀事業所

株主分布状況

	株式数比率	株主数比率
金融機関	52.53%	0.73%
個人・その他	26.99%	94.53%
外国法人等	8.27%	1.70%
その他法人	6.45%	2.12%
自己名義株式	4.82%	0.02%
金融商品取引業者	0.94%	0.90%

大株主一覧(上位10名)

株主名	所有株数(株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,719,800	16.91
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	711,400	7.00
第一生命保険株式会社	613,400	6.03
株式会社みずほ銀行	427,000	4.20
株式会社京都銀行	417,000	4.10
朝日生命保険相互会社	339,400	3.34
DKS取引先持株会	289,900	2.85
第一工業製薬従業員持株会	261,225	2.57
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	167,200	1.64
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	146,100	1.44

(注) 1.当社は自己株式を514,622株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。

2.持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

TOPIC

霞工場の“いま” 新プラント建設に着工

2015年から稼働している三重県の日市事業所霞工場では、2019年8月から新プラントの建設工事が始まっています。

2020年6月完成を目指し、安全に留意しながら工事を進めてまいります。



2020年6月完成予定



三重県日市市 霞工場

株主メモ

創業年月	明治42年4月(1909年4月)
事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	毎年6月下旬
配当	期末配当金受領株主確定日 3月31日 中間配当金受領株主確定日 9月30日
単元株式数	100株
発行済株式総数	10,684,321株(2019年9月30日現在)
お取扱窓口	証券会社等に口座をお持ちの場合、住所変更や買取請求等株主さまの各種お手続きは、原則として口座を開設されている証券会社等経由で行っていただくこととなりますので、ご利用の証券会社等へご連絡をお願いいたします。

証券会社等に口座をお持ちでない場合(特別口座の場合)、みずほ証券(株)およびみずほ信託銀行(株)にてお取次いたします。

お問合せ先 〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4
みずほ信託銀行(株) 証券代行部
フリーダイヤル 0120-288-324
(土・日・祝日を除く9:00～17:00)

未払配当金のお支払 みずほ信託銀行(株) および(株)みずほ銀行の各本店および全国各支店

上場取引所 東京証券取引所(証券コード4461)

第一工業製薬株式会社

〒601-8391 京都市南区吉祥院大河原町5
TEL 075-323-5911 FAX 075-326-7356
<https://www.dks-web.co.jp>

DKSレポート(統合報告書)
はこちらのQRコードから



UD
FONT

